

令和6年5月28日
危機管理部

令和6年能登半島地震に伴う被災地（珠洲市・輪島市）訪問及び視察の結果について

1 主旨

区では、1月1日に発生した能登半島地震に関して、被災地支援本部を設置し、能登半島地震災害支援金（以下「支援金」という。）の受付（募集）を行っているほか、都の対口支援先となっている輪島市をはじめとする被災自治体からの要請に基づき、住家被害認定調査や罹災証明書発行業務等の職員派遣による人的支援を行ってきている。

この度、寄せられた支援金の一部を今般の地震に伴う被災状況等を勘案し、特に被害が甚大である珠洲市と輪島市に寄贈するとともに、両市の被災の現状を把握し、区として更なる支援の可能性等の検討に資するため両自治体の訪問・視察を行ったため報告する。

2 訪問日 4月26日（金）（珠洲市）午後0時50分～
（輪島市）午後3時30分～

3 訪問者 区長、危機管理部と生活文化政策部の管理職及び職員

4 内容

- ・市長との面会
- ・市内視察
- ・支援金の寄贈（第1次） 珠洲市500万円、輪島市500万円

5 面会及び視察の概要

・珠洲市

市長より地震による揺れや津波等による被害状況、発災直後の対応経過や現在の復旧状況について話を伺い、上下水道の復旧や住家被害認定調査、応急仮設住宅の整備に時間がかかることや、外部からの人的支援の不足など、復旧・復興に向けた課題認識について話があった。

市内視察では、津波被害を受けた住宅地や地盤隆起により広範囲に渡り地面が陥没した現場のほか、避難所や仮設住宅などを視察した。

・輪島市

市長より、輪島朝市通りで発生した大規模火災においては消火水利の確保が難しく消火に時間を要したことや、輪島漁港では広範囲に渡り地盤隆起が発生し、漁船が出港できずにいること、伝統工芸品（輪島塗）への影響が大きいことなど、生業の再興支援への課題認識などの話を伺った。

また、都の対口支援の一員として派遣している区職員を激励し、日々の業務内容や生活状況などについて報告を受けた。

その後の市内視察では、広範囲に渡り発生した地盤隆起により市役所の入口でも被害が見られ、また、輪島朝市通りや輪島港において、未だ瓦礫の撤去が進んでいない状況を視察した。

6 今後の対応

今回の訪問を通じて把握した被災自治体の窮状や支援要望も踏まえ、また、今後の区の災害対応に資するため、区として今般の能登半島地震に係る被災地支援の機運をより一層高めていくとともに、被災地への更なる支援・協力の可能性について関係各部とともに引き続き検討・調整していく。